文化財をたずねて No. 12

坂越駅周辺の史跡めぐり

発行　赤穂市教育委員会
編集　生涯学習課文化財係
（赤穂市加里屋81　TEL 43-6858）

坂越駅周辺は千種川流域にあって、上流から運ばれた土砂が堆積してできた土地である。中州や自然堤防が広がり高まった所に集落が形成され、大字名・小字名にその痕跡が多く残っている。縄文時代頃には高野あたりまで海水の干満があったが、弥生時代になると集落ができ、古墳時代には山腹に群集墳が造られる。中世には、木津や浜市に津（港）や市が開かれていたと伝えられている。

この地域は、古くから千種川が豊かな自然の恵みを与え、地域の発展に寄与してきた。しかし、時として幾たびの洪水により悲惨な災いをもたらし、生活を怯えさすばかりでなく、貴重な史料などを流失させ、確かな歴史を語り得ない場合もある。ところで、近年までは詩情豊かでのどかな風景が各所に見られ、川に育てられながら暮らしてきた風情が今でも少しは見られる。

紫雲山光蓮寺

尼子塚

宝寿山西山寺

【坂越駅周辺コース】

1　紫雲山光蓮寺

浄土真宗本願寺派の寺院。本尊は阿弥陀如来。創建は大永３年（1523）、開祖は僧宗玄、寛文元年（1661）に寺号紫雲山となっている。

2　赤穂鉄道坂越駅跡

赤穂鉄道の５カ所ある駅の一つ。赤穂鉄道は、大正10年（1921）から昭和26年（1951）まで播州赤穂・有年間12.7kmを運行した軽便鉄道である。昭和４年（1929）赤穂鉄道株式会社は、交通網の拡充のためバス営業を開始し、ここ坂越駅前は坂越路線の発着点で賑わった。

3　尼子塚

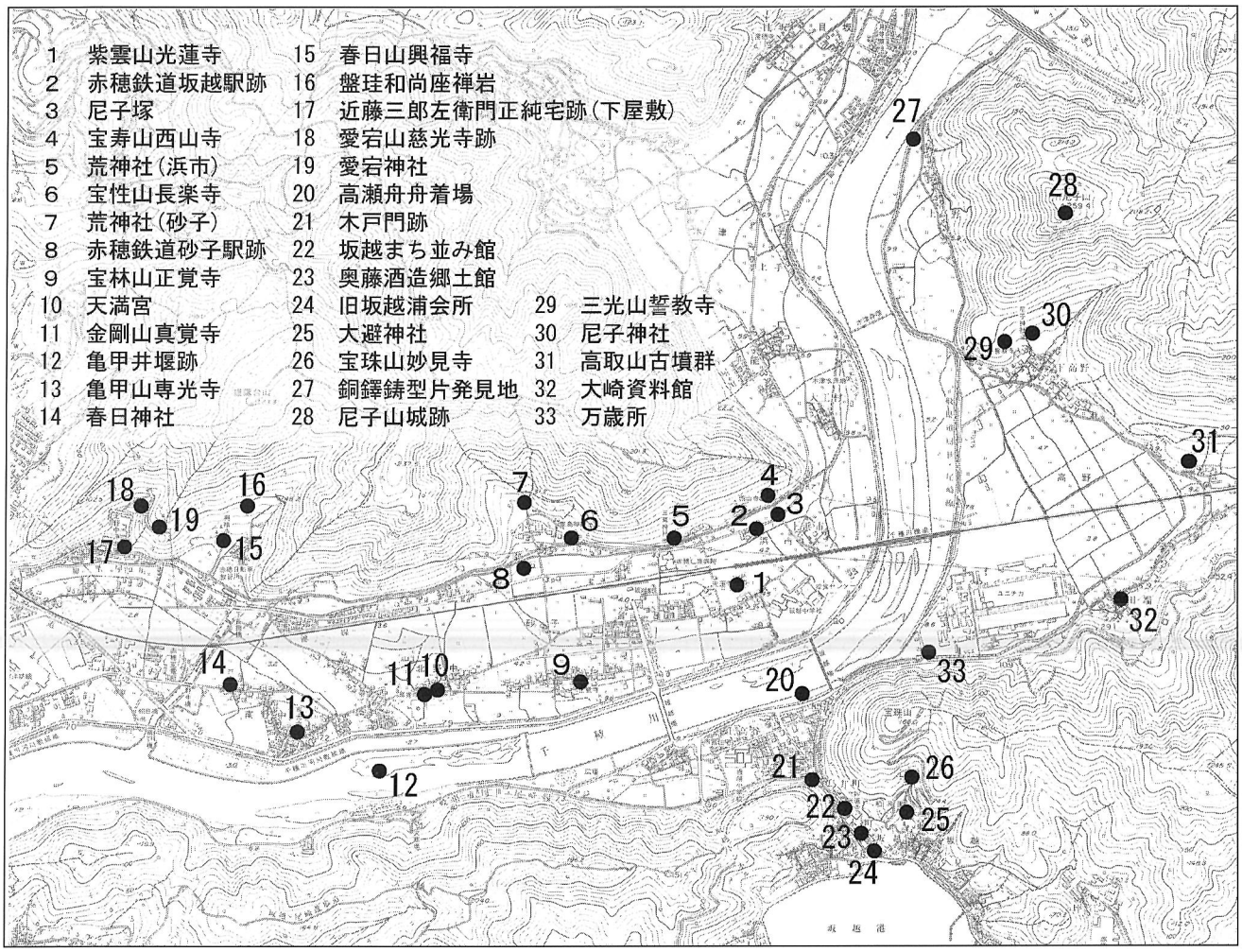
道路傍に３基の五輪塔が安置されていたが、道路拡張のため平成15年（2003）現在地に移設された。尼子将監義久の墓、あるいは尼子氏滅亡後この地を支配した赤松氏一族の富田采女の首塚ともいわれる。

4　宝寿山西山寺

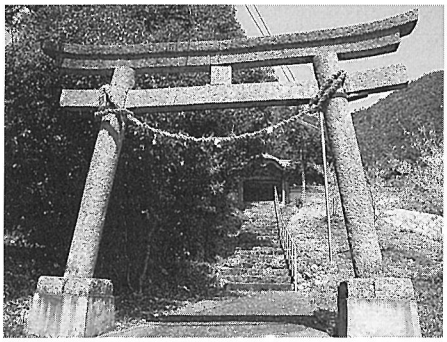
真言宗古義派の寺院で、十一面観世音菩薩を本尊とする。山号は宝寿山、尼子山、天戸山の三説がある。開基は、天平勝宝頃（749～757）行基によって創建され、その後空海が中興したと伝えられ、最盛時には東塔、西塔があったという。戦国期には尼子氏の祈願寺となっていたが滅亡後は消失し、元禄期には勝田新左衛門と僧堯性が精舎を建立、その後元文３年（1738）に住僧宥半が再興し現在に至っている。境内には天明４年（1784）銘の手洗石、参道口には同年銘の地蔵石像と石灯籠がある。播州赤穂坂内33カ所霊場と播州赤穂郡33観音霊場の第14番札所でもある。近くに祭神火魂神の荒神社がある。

5　荒神社（浜市）

集落を見渡す山麓にあり、南向きの社殿が建っている。開拓の神でもある火魂神を祀る。境内には稲荷社のほかサロエの神いわゆる道祖神・縁結びの神も祀る。



宝性山長楽寺



荒神社（砂子）

6　宝性山長楽寺

砂子後山の山麓にある天台宗の寺院。寺伝によれば聖武天皇の神亀年間（724～729）に行基が遊行布教の中、この地に伽藍を建立し観世音菩薩像を安置したと伝える。聖観世音菩薩、不動明王、薬師如来の本尊を祀る。最盛期には12の坊舎、上下の大門などがあった。嘉吉の乱の兵火に遭い焦土と化し、１小坊舎を残すのみとなっていたが、正保元年（1644）住僧の円盛が中興して現在に至る。境内には鹿島神社・稲荷社がある。また、神護寺にあった**木造の不動明王立像、毘沙門天立像は昭和56年（1981）市の文化財に指定**されている。播州赤穂坂内33カ所霊場と播州赤穂郡33観音霊場の第13番札所であって、播磨西国観音霊場第９番札所、播州薬師霊場第19番札所でもある。

7　荒神社（砂子）

祭神は火魂神である。かつては、現在地より100m東の山麓にあったが、大正末期か昭和の初めに移築されたという。この場所は、砂子御山と呼ばれ、参道には大間・小間も建てられていた。境内にはサロエ神（賽の神）を祀る。

8　赤穂鉄道砂子駅跡

赤穂鉄道の４カ所ある停車場の１つ。停車場は待合所程度の小さなもので、乗降客がある場合にのみ停車していた。鉄道の線路跡は生活道路にかわり、桜の開花期には壮観な並木道となっている。

9　宝林山正覚寺

浄土真宗本願寺派に属し、本尊は阿弥陀如来。僧覚阿により正中2年（1325）開基される。寛文元年（1661）本願寺第9世実如上人から寺号を授かる。

10　天満宮

祭神は菅原道真である。境内には春日神社や荒神社を合祀する。かつて春日神社は後山、荒神社は字新田に祀られていた。安政2年（1855）銘の手洗石がある。

11　金剛山真覚寺

本尊は阿弥陀如来で、浄土真宗本願寺派の寺院である。寺伝によれば、永正5年（1508）僧善入によって開基されたと伝えられている。

12　亀甲井堰跡

千種川はかつて熊見川と呼ばれ、石堤の亀甲井堰によって城下へ流れる本流（熊見川）と尾崎川に分岐していた。しかし、明治25年（1892）の大水害を契機に、尾崎川を本流とする流路変更工事が行われて、井堰は撤去され、現在ではわずかながら当時を偲ぶ角礫群の散乱が干潮期に見ることができるのみである。また、亀甲井堰であった石を移築利用した記念碑が春日神社の境内に『碁盤石』として建つ。

13　亀甲山専光寺

浄土真宗大谷派に属し、阿弥陀如来を本尊とする。寛永6年（1629）開基。創建時は西本願寺に属していたが、浅野時代に東本願寺の布教所となり、浅野赤穂藩主より大谷派に転派を命ぜられ現在に至る。

14　春日神社

祭神は天児屋根命で、南野中の鎮守の神として祀られている。境内には水神社と金比羅社がある。金比羅社は、かつては亀甲井堰の堤防上にあったものを合祀したものである。

15　春日山興福寺

臨済宗妙心寺派の寺院で、平安末期頃に創建され、藤原氏と関係が深いと伝えられるが明らかではない。盤珪は慶安3年（1650）北野中に庵を設け、寺を中興し、弟子は5万人余りを数え、播磨一円のみならず全国に47寺を開創したともいう。本堂に聖観世音菩薩像、開山堂には盤珪国師木像を安置している。境内には、赤穂藩家老森家、柴原家、柳田家の累代墓をはじめ赤松滄州、中井玄端、藤田東閣、柳田美郷等の文人の墓がある。また、境内の庭園は苔が一面に覆い、禅宗の寺ならではの落ち着いた佇まいがある。播州赤穂坂内33カ所霊場と播州赤穂郡33観音霊場の第12番札所である。

16　盤珪和尚座禅岩

盤珪永琢は、元和8年（1622）揖西郡網干浜田村（姫路市）に生まれる。幼い頃から寺門に入り、寛永15年（1638）随鷗寺雲甫全祥のもとで得度し、雲甫の教えである座禅の難行修行を重ね、不生を説いた。興福寺の裏山には、盤珪が座禅修行したと伝えられる岩がある。盤珪の説く不生禅・寺院の開創・精力的な結制はいずれも当時の宗教界に革新をせまるものであり、没後50年忌間近の元文5年（1740）大法正眼国師を勅許された。

宝林山正覚寺

金剛山真覚寺

亀甲山専光寺

春日神社

春日山興福寺

近藤三郎左衛門正純宅跡

愛宕神社

高瀬舟舟着場

木戸門跡

坂越まち並み館

17　近藤三郎左衛門正純宅跡（下屋敷）

近藤正純は、通称三郎左衛門。慶長8年（1603）の生まれで、常陸真壁（のち笠間）藩主浅野采女正長重に仕えた。長じて軍学を小幡勘兵衛景憲に学び、たちまち同門の右翼となった。浅野内匠頭長直の赤穂入封に従って赤穂に移ると、西国で兵学を志す多くは、彼の門に学び、西国の兵学者中最も多くの門弟があったという。藩の軍学師範・家老として千石の高禄であった。築城後は大手門を入った三之丸にある屋敷地に邸宅（上屋敷）を構えたが、新城築営中は山崎山東麓の下屋敷から通い築城を指揮したといわれる。

18　愛宕山慈光寺跡

近藤正純は浅野内匠頭長直より愛宕山麓を下賜され、下屋敷の山上に、赤穂城築営の無難を祈願するため愛宕山地蔵院慈光寺を建立した。開基は正保2年（1645）権大僧都秀恕法印である。かつては真言宗古義派に属し、昭和の中頃まで建っていたが、昭和43年（1968）常清寺に併合され、以後廃寺となる。今は赤穂市の浄水場の背後中腹にあり、歴代住職の墓が数基建ち、その面影を少し残すだけである。

19　愛宕神社

浅野内匠頭長直は正保2年（1645）に赤穂に入封し、翌年正月24日近藤正純に命じて城鎮守として愛宕山社を建立させた。この地は、城の丑虎（北東）にあたり鬼門となるため、厄除けと武運繁栄・国家安全を祈って社を建立したといわれている。現在、跡地は赤穂市の水源タンクの背後にあり、社殿は朽ち果て玉垣と鳥居を残すのみである。

【坂越町並みコース】

20　高瀬舟舟着場

千種川を利用する高瀬舟運路は17世紀には成立していたといわれ、内陸部（上流部）との流通において重要な役割を果たしていた。内陸部からは米・麦・木炭・こんにゃく玉・綿など、臨海部（下流部）からは塩などの海産物が運ばれた。舟着場では物資の荷揚げ・積込みが行われ、土手堤の荷扱い所は大いに賑わい『坂越浦の裏玄関』ともいわれた。中土手（荷揚場）から本通りの土手に渡す石橋は、『高瀬の石橋』と親しまれ、昭和60年（1985）名残りの石橋3本を跡地に保存し、土手堤に『高瀬舟船着場跡』の記念碑が建立されている。

21　木戸門跡

かつて、江戸時代には坂越浦の治安警護のため木戸門を設置し、番人を配して朝夕に開閉していたといわれている。木戸門跡は平成7年（1995）にモニュメント整備された。この南には、正中元年（1324）開基と伝える古刹雲谷山常楽寺がある。

22　坂越まち並み館（TEL 48－7770）

まち並み館は、大正末期に建築された旧奥藤銀行坂越支店の建屋を坂越の町並み景観創造の活動拠点として、また坂越の来訪者が気軽に利用できる中核拠点施設として活用するために平成6年（1994）修景整備した「館」である。裏には学西が享禄5年（1532）開基した光明山妙道寺（浄土真宗本願寺派）がある。本堂は享保19年（1734）、鼓楼は寛保2年（1742）、鐘楼は寛延2年（1749）、山門は宝暦3年（1753）のものである。

23　奥藤酒造郷土館（TEL 48－8005）

奥藤家は慶長6年（1601）以来、酒造りのほか大庄屋、船手庄屋を勤めた廻船業で財をなし、金融・地主・製塩・電燈等の事業も興した。300年前に築かれた母屋は、西国大名の本陣にもあてられ、大規模な格式の高い入母屋造の建物である。酒蔵は寛文年中（1661～1673）の建物で、高さ2m余りの石垣による半地下式の構造も保存されている。郷土館は昭和61年（1986）開館され、酒造用具などの酒造関係、廻船や漁業等の資料が無料公開されている。

奥藤酒造郷土館

24　旧坂越浦会所（TEL48－7755）

天保2年（1831）坂越浦の会所として建築、翌年完成し明治まで使われたほか、赤穂藩主などが休憩所や宿泊に利用された御成之間の観海楼がある。昭和5年（1930）に大改造し、一時坂越公会堂になった。**平成4年（1992）市の指定文化財**となり、翌年から2カ年かけて創建当時の姿に解体復元整備し、無料公開している。裏には伝小倉御前の墓がある。ここ**坂越の町並みは、平成4年（1992）市の市街地景観形成地区に指定**され、港町の風情ある町並みが残っている。坂越湾口、西南端の岸辺に**平成4年（1992）県の指定文化財となった黒崎墓所**がある。

旧坂越浦会所

25　大避神社

祭神は天照皇大神、大避大明神（秦河勝）、春日大神である。神社創建は不詳であるが、播磨国総社縁起によると養和元年（1181）祭神中太神24座に列せられていたという。本殿は明和6年（1769）、拝殿と神門は延享3年（1746）に再建され、絵馬堂には多くの古絵馬が奉納されている。秋の例大祭である**坂越船祭りは平成4年（1992）国の選択無形文化財、その祭礼用和船は昭和60年（1985）兵庫県有形民俗文化財に指定**されている。神門の仁王立像・随神坐像や、享保4年（1719）に再建された仏教様式の建物である御旅所などに神仏習合の名残りを見ることができる。向かいの**生島樹林は大正13年（1924）国の天然記念物に指定**されている。

大避神社

26　宝珠山妙見寺

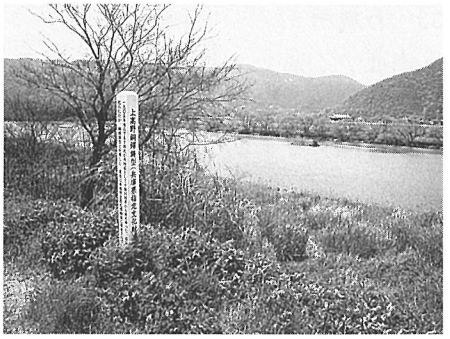
真言宗古義派の寺院。寺伝によれば天平勝宝頃（749～757）行基によって創建され、大同元年（806）空海が中興したと伝える。盛時には宝珠山山腹一帯に16坊5庵があったが、嘉吉元年（1441）の嘉吉の乱や文明17年（1485）の僧兵一揆により焼失したという。その後、乗叶が明応5年（1496）に再建し、その後は近世の港町としての繁栄とあいまって寺運も隆盛したが、明治の神仏分離令後は今日に至っている。境内には、近世社寺のなかでも珍しい懸造で**平成9年（1997）に市の指定文化財となった観音堂**や薬師堂・地蔵堂などが建つ。播州赤穂坂内33カ所霊場と播州赤穂郡33観音霊場の第1番札所で、周辺には桜の名所で有名な船岡園、茶臼山城跡、坂越浦城跡などがある。

宝珠山妙見寺

【高野周辺コース】

27　銅鐸鋳型片発見地

昭和51年（1976）千種川堤防の地蔵堂の石仏が銅鐸の鋳型片であることを、有年考古館長松岡秀夫氏（故人）によって指摘された場所。**銅鐸鋳型片**は、旧所有者である山下フサノ氏（故人）の祖父が千種川



銅鐸鋳型片発見地

河原で拾い上げ、地蔵像の頭部として祀っていたもので、現在は赤穂市立歴史博物館（TEL43－4600）に保管展示されている。鋳型は銅鐸の鈕部分にあたり、砂岩製で高さ24㎝、重さ23.2kgを測る弥生時代中期のもので、**平成５年（1993）に兵庫県指定文化財**になっている。

28　尼子山城跡

標高259ｍの尼子山頂上部にあり、尼子将監義久により築かれたという。山頂は平坦で中央部がややくびれ、４段からなる曲輪跡が残り、井戸跡もある。永禄６年（1563）の義久落城説もあるが、義久は出雲富田城落城後、出家して慶長15年（1610）まで生きているので、一族が在城したとも考えられている。また、尼子山は一名『雨乞い山』ともいい、旱魃の年は雨乞いをした山ともいう。

29　三光山誓教寺

浄土真宗本願寺派の寺院。本尊は阿弥陀如来。元文３年（1738）僧無能の開基。寺宝の三界六道図絵は16幅。色彩も鮮やかで保存状態も極めて良く、江戸末期頃の作と推察されている。かつては隔年で５月上旬に「御絵解法要」が行われ、赤穂周辺から多くの参詣者があり賑わった。現在でも４月最終日曜日に「御絵解法要」が行われている。

30　尼子神社

祭神は尼子将監義久で、尼子山上にも祀られている。境内には三宝荒神社、ニイガキ社などがある。ニイガキ社は義久と運命をともにした側室ニイガキの君の霊を慰めるために建立されたという。山上の鳥居は安永３年（1774）、境内の手洗石は文政５年（1822）の記銘がある。

31　高取山古墳群

高取山の山裾から中腹にかけて、21基の横穴式石室墳と６基の積石塚が分布していたが、周辺の土砂取りで八重山古墳とともに一部消失した。山裾にある横穴式石室墳の一部は内部構造の残りもよく、墳丘も原形を留めている。また、鉄道を挟んだ向かいの高伏山にも古墳３基で構成される高伏山古墳群がある。

32　大崎資料館（要事前予約　TEL48－1050）

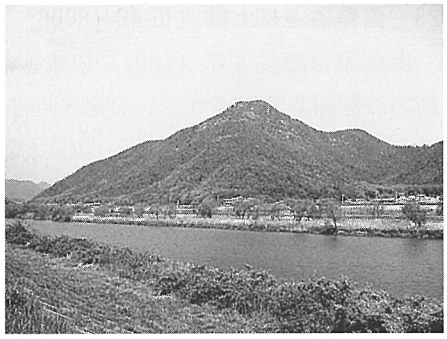
資料館は、大崎卓見氏（故人）によって平成８年（1996）に開館され、先祖代々の記銘をもつ鬼瓦を中心に瓦関係や軍関係の資料が無料公開されている。また、近くの集会所に建つ元文４年（1739）銘の延命地蔵立像は、かつて旧高取峠中腹にあったものを、平成15年（2003）に移設安置されたものである。高野の共同墓地にある元文４年（1739）銘の迎え地蔵立像も延命地蔵と同じ建立者である。

33　万歳所

出征する兵士、伊勢詣などで旅立つ人を身寄りの者や近所の人々が見送り、別れを惜しんだ所で、時には万歳三唱をしたという。当時の風習とはいえ、今はその面影もない。

調査協力者

照峰清熙　尾上松男　倉橋貞夫　唐崎安也　茶谷豊　照本祥雲
三好信雄　伊東正幸　大西　孜



尼子山城跡

三光山誓教寺

尼子神社

高取山古墳群

大崎資料館